

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年12月1日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・5歳児「原っぱと畑探検と草むしり・・・何がみつかるかな」

<テーマ設定理由>

園地内に畑を借りている。毎年、年長児がさつまいもを育てている。草むしりをして、畝づくりをし、さつまいもの苗を植える収穫までの経験をしている。今夏の猛暑によりさつまいもの収穫時期が遅れていた。12月になりようやく収穫のめどが立った。まずは収穫に向けて芋の蔓を取りに出かけた。芋や蔓の様子はどうなっているか探索を行う中、虫探しや飼育を続けてきた子ども達の思いが見られた。

2. 活動スケジュール

年長児になって始めて畑の草むしりに行き、グループごとに原っぱで自然に触れる。さつまいもを育てる活動を草むしり、畝づくり、苗を植える、水を撒く、雑草を抜く、等の活動を継続的に行い、さつまいもの生育を見守ってきた。同時に、虫探しや虫の飼育について探究を深めている。今回は、さつまいもの蔓を取りに行く中での虫やさつまいもに触れることを通して、子ども同士の考察が伺えた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・原っぱで見つけた自然物を直ぐに調べられるように、昆虫・草花のミニ図鑑を持っていく。
- ・ビニールを準備して置き、「持って帰って調べたい。」という時には、持ち帰る。
- ・カメラで写真を撮って後で調べられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

大きな葉と長い蔓が畑一面に育っている。当然、子ども達はその下の土の中に育っているさつまいもの生育具合に関心を持っている。同時に虫探しやその飼育に探究活動を通して様々な考察を深めてきた子ども達。さつまいも掘りを通じて子ども達が、虫の飼育やさつまいもの育て方等、思いを伝え合いながら探究している。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

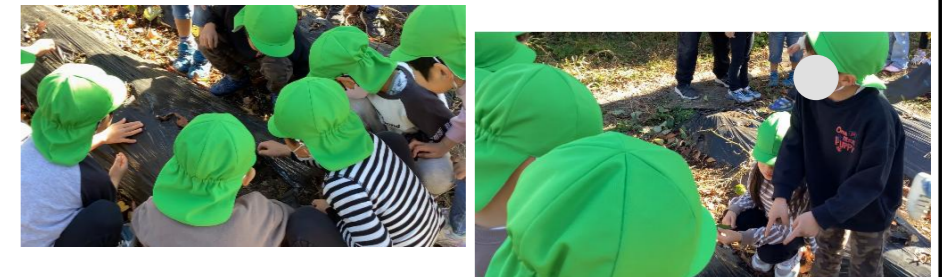
さつまいもの収穫に向けて、畑ではさつまいもの蔓を取り除いて翌日のさつまいも掘りに備えている。そんな中、さつまいもが抜けてしまい大きな穴が開いた。その穴の中にはダンゴムシがたくさん隠れていたことを子ども達が見つけた。

A: みてみてこんなところにダンゴムシが隠れてた。
 B: ほんとうだ！
 C: 小さいダンゴムシがいっぱいいる。
 D: ダンゴムシの家族みたい。
 E: ダンゴムシのおやこ
 C: きょうだいもいる。
 ~ダンゴムシを穴の中から出そうとして、指でつまむ。穴から畝の外にどかしている。
 投げるようにして穴から出す子どももいる。
 A: やめて！ねえ、かわいそうだよ。
 B: さつまいもが出ちゃったから穴に入れなきゃ。
 A: だめだよ、ダンゴムシがいるのに。
 B: さつまいもが育たないから、穴に入れて。
 D: 私ね、さつまいもが好きだからね、さつまいもの方がいいかも。
 A: じゃあ、(ダンゴムシが) しんじゃったらどうする？
 E: かわいそうだね。

A: ださないで！
 C: 今は逃げたんだよ。
 B: じゃあさあ、お芋が育たなくてもいいの？
 A: そうだけど、ダンゴムシがいだらさ、みんな家族なんだよ。
 B: こっちに(ダンゴムシを) 置いて、いいじゃんみんなここに置いておくんだから。
 A: 家族です！
 B: 家族かもしんないけど・・・(と言いながら穴から出す)
 E: Bくんがお芋の穴に(さつまいもを) いれられないからダンゴムシを出そうとしてる。
 C: じゃあみんなは、どっちのほうがいいの？
 ダンゴムシいれるのとお芋が食べられないの。
 D: わたしはさつまいもが好きだから、さつまいものほうがいいかな。
 A: ダンゴムシがしんじゃったらどうするの？
 E: ダンゴムシも命が・・・
 B: 何でダメなんだよ、食べるのに！
 C: ダンゴムシ(穴の中に) 置いてもいいじゃん。
 ~しばらく平行線のまま言い争うようになってきた

(Bは穴から出すことは、周りの友達への反対もあってやめる。その代わりに、さつまいもを埋め直す穴にダンゴムシを入れてその上にさつまいもを入れようとしている。)

A: かわいそう！しんじゃうの。(さつまいもをダンゴムシの上に載せないようにどかす)
 ダンゴムシがいっぱいいたのにさ、家だったらどうするの？
 お芋を置きたいからって、ダンゴムシをポイポイ出してたの。(と怒っている)
 B: 出してふまれるのと、(お芋につぶされて) つぶれるのどっちがいい？
 E: つぶれてしぬよりはさあ、(ダンゴムシを) 外に出してあげた方がいい。
 A: ちがうよ、ここが家だったらどうするのって！土の中に入れていくじゃん。
 (ダンゴムシを避けて穴の中に埋め戻さず、さつまいもを置くAの姿にみんなが納得したのか、その状態のままにして討論は終わった)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちはダンゴムシを「家族」「おやこ」「きょうだい」と擬人化し、土中の穴を「家」と認識して強い共感を示した。これにより、5歳児が自然界の命に親しみをもち、生命のつながりを自然に感じ取る感性が育っていることがわかる。
- ・Bの「さつまいもが育たない」「食べるのに！」という現実的な主張に対し、Aの「かわいそう」「しんじゃったらどうする？」が感情面から反論し、平行線から妥協(ダンゴムシ避け埋め戻し)へ移行したのは、一応の子ども同士間での解決が見られたのではないか。
- ・子ども同士の自然な話し合いを通じて、意見の相違を認め、他者の視点を考慮する道徳的思考と問題解決力が育っている。
- ・子どもたちはダンゴムシを「家族」や「おやこ」と呼んで、穴の中を「家」だと思って大切に思っていた。5歳の子たちが、生き物に対してこんなに優しい気持ちを持っていることに気づけた。
- ・Bくんはさつまいもを大事にしたいと言い、Aちゃんは「かわいそう」とダンゴムシを守ろうとした。お互いの考えを聞き合っで、最後はみんなで納得する形を見つけた。子どもたちが自然に話し合っで、決められる力が育っている。
- ・お芋を食べたい気持ちと、ダンゴムシの命を思う気持ちの間で、みんな一生懸命考えていた。食べ物を作る大変さと、生き物を大切にするバランスを、少しずつ感じ取っている姿が素敵。
- ・このお話から、子どもたちの気持ちに寄り添って、もっと自然の中で優しい心を育てていけそう。保育士は、みんなの言葉を優しく聞いて、楽しい発見と一緒に喜びることが大切。